

■ 清水幾太郎 社会学者、思想家。<敗戦>後、時流に対応して常に学界のトップランナーとなり、大きな影響を及ぼした。

しみずいくたろう

韓国反日暴動1907 = 東京市日本橋区薬研堀町(東京都中央区)で、商家清水末吉・慶子の長男に生まれる。

明治天皇没・1912 = 5歳：

民本主義・・1916 = 9歳：

原敬首相暗殺1921 = 14歳：

独協中学，

治安維持法・1925 = 18歳：

東京高校を経て，

満州事変・・1931 = 24歳：東京帝国大学文学部社会学科卒業。同科の副手となる。

国際連盟脱退1933 = 26歳：*「社会学批判序説」で学界に登場，自然法と有機体説の対立のうちに社会学の成立を見る。

帝人疑獄事件1934 = 27歳：東大副手を経て，

芥川賞始1935 = 28歳：「社会と個人——社会学成立史」，

二二六事件・1936 = 29歳：「日本文化形態論」，

日中戦争始・1937 = 30歳：「流言蜚語」，

第二次大戦始1939 = 32歳：東京朝日新聞社会学部嘱託として，コラム{槍砲兵}で時評を担当した後，

大政翼賛会・1940 = 33歳：「社会的人間論」。上智大学講師，

日米開戦・・1941 = 34歳：「新しき人間」。文化学院講師。読売新聞社論説委員となる。

・・・・・1942 = 35歳：陸軍に徴され，ビルマに赴く。

創価学会検査1943 = 36歳：

敗戦・・・・1945 = 38歳：敗戦後，読売新聞社を退社し，

新憲法公布・1946 = 39歳：「民主主義の哲学」。*{21世紀研究所}を設立して所長となり，日本の民主化に対処する知識人集団を組織。

新憲法施行・1947 = 40歳：翌々年にかけて，東北帝大講師，

日本の民主化・産業化に即応し，アメリカ社会学・社会心理学の成果を積極的に吸収，

極東裁判判決・1948 = 41歳：「社会学講義」，

三大事件・・1949 = 42歳：「ジャーナリズム」「青年の世界」。学習院大学教授に就任。

朝鮮戦争始・1950 = 43歳：「生活の思索」「愛国心」。_代表作「社会学講義」と，

独立回復・・1951 = 44歳：「私の社会観」，

メーデー事件・1952 = 45歳：「社会心理学」で特徴づけられる。同年，文学博士。

自衛隊発足・1954 = 47歳：「学生論」，

55年体制始・1955 = 48歳：「日本が私をつくる—ドレイ根性からの解放」，

なべ底不況・1957 = 50歳：「組織と人間」，

美智子妃・・1959 = 52歳：「現代思想入門」「論文の書き方」「社会学入門」，

安保闘争・・1960 = 53歳：*安保闘争を契機として，後期の清水社会学となり，

タイタイ病始・1961 = 54歳：

産業化から情報化・管理化へと推転していく日本社会のなかで，マス(大衆)としての近代的個人という逆説への深いペシミズムとその反動としての民族・国家・伝統への回帰を基調として行く。

TV宇宙中継始1963 = 56歳：「現代の経験」，

いざなぎ景気1966 = 59歳：「現代思想(上下)」，

大阪万博・・1970 = 63歳：学習院大学教授を退任。_「清水研究室」を開設。

日中国交回復1972 = 65歳：「倫理学ノート」「本はどう読むか」，

石油ショック1973 = 66歳：

ケラップール事件1975 = 68歳：「わが人生の断片」，「わが精神の放浪記 1,2」，

田中角栄逮捕1976 = 69歳：「この歳月」，

JALハイジャック・1977 = 70歳：「昨日の旅」，

成田衝突・・1978 = 71歳：「オーギュスト・コント—社会学とは何か」，

革新大敗北・1979 = 72歳：

貿易摩擦問題1980 = 73歳：「戦後を疑う」「日本よ国家たれ——核の選択」，

中曽根内閣・1982 = 75歳：

・・・・・1984 = 77歳：「ジョージ・オーウェル—"1984年"への旅」，

バブル始・・1986 = 79歳：_「私の社会学者たち」に至るまで，常に学界のトップランナーであり，きわめて大きな影響力を発揮して，

リクルート事件・1988 = 81歳：_没した。